

## 事業概要書

事業名	令和元年台風 19 号北関東・東北災害支援活動（茨城県・福島県）				
開始日	2019 年 10 月 20 日	終了日	2019 年 12 月 4 日	日数	46 日
団体名 (カウンターパート)	NPO 法人 災害支援団 Gorilla				
担当者名	茅野 匠	スタッフ人数	4 人		

事業費総額（税込）	712,335 円
CF 事業枠	300,000 円
その他資金	412,335 円

事業目的	被災地への支援物資の呼びかけ、物資の仕分け・輸送や被災者への配達を始め、炊き出し支援・地域コミュニティ再建（居場所づくり）支援を通じて、被災者と支援者の想いをつなげる。
事業全体の概要	<p>●災害支援団 Gorilla とは</p> <p>平成 30 年の西日本豪雨災害発災当日、何かしなくてはという強い思いから代表の茅野が当日にカヤックを購入し、2 日間で 12 名の救助活動を行った。その 5 日後に立ち寄った避難所の食事を目の当たりにし、栄養面等バランスのとれた食事の必要性を感じた茅野、吉川が中心となって災害支援団 Gorilla を設立。設立後は、倉敷市真備町だけでなく、九州北部豪雨災害佐賀支援活動、令和元年台風 19 号災害（茨城県常陸太田市、福島県いわき市）支援活動を実施。有事の際に重要なのは情報収集と必要な支援の見極めをすることであるという考えのもと、支援物資輸送・配布、炊き出し支援、「GorillaCafe」というカフェ活動を通じた地域のコミュニティづくり行ってきた。健康的な『食』を通じて安心感を得ること、Café で珈琲を飲みながら話すことで心のストレスを軽減し人と人との繋がりを更に深めることを最大の目的とし、目には見えない「安心感」と笑顔を届ける活動を続けている。</p> <p>●取り組むべき課題</p> <p>被災地の様々なニーズを把握すべく調査をしたところ、避難所・在宅避難者はコンビニのお弁当を連日食べざるを得ない状況にあり、「排泄が困難になってしまった」「栄養が偏り食事自体を摂ることが億劫になった」という声が多く聞かれた。生命活動の維持のために欠かせない行為である「食」という行為自体に影響が出ていることを実感するとともに「食の改善」が被災地での大きな課題となっていることを知った。</p> <p>そこでこの課題を解決するために、平成 30 年西日本豪雨災害における炊き出しなどの経験の中で得た「『食』は被災者の心を癒やし、人々の心を結びつけるものである」という学びをもとに、「食の支援」を実施する。心の復興なくして街の復興は成し得ない。「心の復興が、街の復興につながる」というこの学びを活かし、「食」をひとつの支援・</p>

	<p>交流ツールとしながら心の復興を促すとともに、支援に頼りきりの復興では無く地元住民主体でのコミュニティー再生や被災者の自立へと繋げていく。</p> <p>●<u>パートナー協働プログラム対象事業</u></p> <p>①炊き出しやカフェ活動など「食」を通じた居場所づくりと、コミュニティー再生支援</p> <p>被災者が安心して「食」を楽しみながら他者との交流を楽しむための炊き出しや、カフェ運営を行う。また、災害によってこれまでの地域コミュニティーから切り離されてしまった人たちのための居場所づくりを支援し、地元住民による自立的な運営が可能となるよう運営のサポート等を行う。</p>
事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
① 炊き出しやカフェ活動など「食」を通じた居場所づくりとコミュニティー再生支援	被災者住民 3,800 人

### CF 協働事業予算概要

計上費目		小計	備考
直接事業費	コンポーネント①	45,000 円 27,600 円 120,000 円 107,400 円	炊き出し食材費 通信費 (宅急便、岡山から茨城県常陸太田市) 宿泊費 4名×5,000×6日 調理機材費
総額 (税込)		300,000 円	